

1991/6/23 7/10

顔面カラテ 日本一決定戦

井口全日本2連覇達成

顔面有り空手の歴史の最先端を走る、今、最も気になる空手団体、新空手の全日本大会が開かれた。軽、中、重の3階級に別れて行なわれた同大会。それぞれのクラスを井口勝彦(正心館)、荒井一嘉(治政館)、稲葉紀之(藤原道場)の3人が制した。

▶ 第2回全日本新空手道選手権大会

●日時/1991年5月4日
●場所/東京武道館
●主催/全日本新空手道連盟

軽量級(60kg以下)は井口が2連覇

一般60kg以下の部は、出場者が37名と多く、えりぬきの選手たちが集まり、最も層が厚い。このクラスを制したのは昨年に引き続き、正心館の井口勝彦。並いる強豪を打ち倒しての2連覇は立派である。井口の武器は並はずれたパンチ力で、左右のフックでことごとく対戦相手を一蹴する。

井口は3回戦を寺岸(丈夫会)、4回戦を島村(治政館)、準決勝を初瀬(治政館)と、全て優勝候補クラスの選手を相手に決勝に進出。この井口と決勝で顔を合わせたのは早大生の新鋭・井上哲(フリー)。井上も柴田(治政館)、石山(正心館)、稲葉(治政館)という優勝候補を相手にあれよあれよと勝ち抜いてきた。鋭いふみ込みからの蹴り、ヒザを得意とするキックスタイル。

両者の決勝は、井口がローからフックで攻め、井上がけりとパンチでカウンターを狙うが、やはり井口の勢いとパンチ力が勝り、判定で井口。井口はローの威力も出てきたが、まだ力で押しきる欠点があり、この先プロの舞台で活躍するには顔面ガードと攻撃の幅を広げる課題が残るそう。

中量級は荒井が圧勝

このクラスを制した治政館の荒井はプロのリングでも大物新人として期待されるスケールの大きな戦いをするハードパンチャーである。このクラスは荒井のいるBブロックが強豪勢がひしめき、互いに星のつぶし合いをした。昨年の覇者越川(治政館)は得意のヒザでKOを重ね4回戦に進出したが、ここで黒川(柔気拳法)とあたり、延長戦まで死闘を演じ敗れる。黒川も得意のストレートでほとんどダウンを奪っての4回戦進出。

その黒川と荒井の準決勝は実質的な決勝戦であった。荒井も1回戦からここまで得意のミドルとフックで全てKO勝ち。両者の打撃

戦はすさまじく、結局荒井の右フックが炸裂し、ダウンを奪い、決勝へ。

一方のブロックからは、八木橋(尚武館)が進出した。防具空手出身だけに、ふみ込みのいいけりとパンチを持つが、決勝では荒井の右ストレートの前に玉砕。荒井が堂々の優勝を果たした。

重量級は新鋭の稲葉が制す

昨年の全日本では、軽量が正心館、中量級が治政館、重量級は士心館が制した。軽、中は昨年と同じ団体が制したが、層のうすい重量級は混んとしているため、このクラスだけが、昨年と異なる団体が制した。

昨年の優勝者、士心館の白木は準決勝で大成熟の大成に蹴りの本数が足りず敗退。

その大成と決勝を争ったのは新鋭藤原道場の稲葉。稲葉は右フックに爆発的な破壊力を秘め、ほとんどKOの山で決勝進出。決勝戦も蹴りからパンチのコンビネーションで大成からダウンを奪い、ダークホースの稲葉が、このクラスを制した。ちなみに稲葉と大成はともに大成塾での練習仲間。大成の主催する大成塾のように、小団体でも顔を研究している団体が、空手界には増えており、大団体をおよびやすほどの実力をつけてきている。



入賞者のメンメン。

中量級の黒川(右)の活躍も目立った。3回戦での川島(フリー)との打ち合い。



重量級3位決定戦。白木(右)は石丸(北星館)を圧倒。



RESULTS

- へ一般60kg以下の部
- ①井口勝彦(正心館) ②井上哲(フリー)
 - ③初瀬隆司(治政館)
- へ一般67kg以下の部
- ①荒井一嘉(治政館) ②八木橋敏之(尚武館) ③黒川尚明(柔気拳法)
- へ一般70kg以上の部
- ①稲葉紀之(藤原道場) ②大成敦(大成塾) ③白木貴之(士心館)

顔面ありのタブーに挑戦し、空手の新しい歴史を作るエネルギーは、案外、このような小団体の中に秘められているのかもしれない。その意味からも、ダークホースの稲葉の優勝は、新空手にとっても明るい材料だと言えそう。

福昌堂

VIDEO THE BOMBER KUNG-FU

絶賛発売中!!

秘伝・秘技公開

◆税込価格 9,500円 ◆送料 500円 ◆カラー 60分

凶猛なるインフライト爆弾 心意六合拳

心意六合拳は今より400年余り昔、中国山西省の短
際により創始された。その技術は凶猛無比にして危険なため、近代にいたるまで少数民族の間に
のみ伝承され、決して一般に公開されることはな
かった。このビデオは心意六合拳の十大形、身成
六式を特別に公開するものである。

馮正宝 1947年、中国浙江省、温州出身。幼少の頃
より武術に親しみ、内家三拳（形意、八卦、
太極）の精髓を得る。とくに豪打凶猛で知
られる心意六合拳を、近代の名人・盧嵩高
の高弟、徐文忠に学び、嫡伝を継承する。

CONTENTS

- 心意六合拳基本功
- 五大勁・身成六式
- 明勁・暗勁
- 十大形および用法
- 実戦散打
- 槍による発勁強化法



購入方法

- 全国の書店でお求め頂けます。
- お急ぎの方は本誌巻末にあります「小社発行物購入のご案内」の頁をご覧の上、直接小社までご送金がたがたお申し込み下さい。



女子の試合も組まれた。女の子でもガンガンやる。今どき男のクセに顔面をコワがってちゃダメよ。

重量級決勝

稲塚(左)は大成(右)からパンチでダウンを奪い堂々の優勝。



荒井(右)は圧倒的強さで新鋭の八木橋(左)をKOで倒す。

中量級決勝



井口(右)と井上(左)の打ち合いはみこたえがあった。新空手もこの間合でパンチを交錯する時代になった。

軽量級決勝

